

---

# バカとテストと怠け者

皇帝たわし様

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

バカとテストと怠け者

### 【Nコード】

N3671Q

### 【作者名】

皇帝たわし様

### 【あらすじ】

英語が少し（いやかなり）苦手な主人公が転生し、原作破壊を目指すして頑張るお話。

怠け者な主人公に無事原作破壊ができるのか！！

## プロローグ（前書き）

どうも皇帝たわし様です。

今まで読み専門だったのですが書いて見たくなり書きました。

おそらく駄文です。

それでも良ければお読みください。

## プロローグ

突然だが俺はどこまでも真っ黒な空間にいる。

正直どうしてこんなところにいるかまったく意味がわからない。

途方にくれてあたりを見渡してみると……

「ようやく気がついたか。」

中性的というのが一番ふさわしい感じの神々しい声が頭に響いてきた。

「なんだ！！お前はいつたどこにいる。」

驚き思わず声を張り上げてしまう。

ん……なんかこの展開読み覚えがあるぞ。

まさか二次小説的テンプレ転生か！！

面白みがまっただくなかったこの15年間の人生に終止符がうつるといつのか、

突然聞こえてきた声に一つの可能性を見出しテンションがあがってキターー

てことは俺死んだのか！！

「はあくなにを勝手に興奮しておる」

気づくと目の前に一人のいかにも神って感じの髭の長いおっさんがいた。

……とりあえず落ち着かないと。

Be cool・俺落ち着くんだ。

よし落ち着いた。

「おお、よくわかったな確かにわしは神じゃ」

おk把握やっぱり俺は死んでここにいるんだな。

「それはあたつておるが、なんで声にだして喋らないんじゃ？」

いや最初の心の中で思ってたことばれてる時点で心が読めるのはわかるからな。

「ずいぶん冷静なようじゃが本当に理解できてるのかの？」  
あああんと話しているうちに自分がどうして死んだか思い出したよ。

そういい、いや思いそのときのことを思い出す

それは学校帰りのこと、

買ったゲームを早くプレイしたくて自転車をとばしていたときだ。  
といっても死んだのはゲームのためにとばして赤信号に飛び込んで死んだとかじゃない、

赤信号ではちゃんと止まって信号につかまったことを毒づいていた。  
信号が青になるのをまだかまだかと待っている……

赤信号なのに車道に飛び出していった小さな女の子が見えた。

え……

なにあれマズくね。

そう思いながらもすでに俺は女の子を助けるため自転車を捨て走り出す。

くっそまにあえええ！！

「きゃあー」

誰かが女の子に気づいたのか悲鳴をあげている。

でもそんなのかまっている暇はない！！

必死に走り女の子に追いつくと、その目の前にはすでにトラックが  
せまっていた。

せめて女の子だけでもそう思い女の子を押しとばす。

その直後俺はトラックに轢かれ空に投げ出されていた。

ああ俺死んだな。

それだけを思い走馬灯なんかもなく俺の意識はブラックアウトして  
いった。

そういえば、あの時助けた女の子は生きてるのか？

「おぬしが突き飛ばしたおかげで擦り傷はあるが大きな怪我は無い

ぞ。」

そうか……よかった俺のしたことは無駄じゃなかったんだな。

「無駄ではないんじゃないか？」

「実はおぬしはあそこで死ぬはずではなかったのじゃ。」

えーとそれってどうゆうことだ？

「予定調和はしっておるか？」

神によって関係やできごとが起きる事が定められてるってやつだよな。

「そうじゃ。あの事故では女の子が死ぬだけのはずじゃった。」

いや、事実として俺死んじまつてるんだが？

「そうじゃ。おぬしの行動は予定調和に歪みをつくってしまつものじゃった。」

じゃあ俺はそのことでここにいるのか？

「そうじゃおぬしのは転生してもらつ。」

えーと突然すぎて意味わかんないんだけど……

「すまんすまん突然すぎたの。」

「予定調和に出来た歪みを直すためじゃ。」

「おぬしにいた世界と違う世界に転生してもらつ。」

ちなみにどんな世界なんだ？

俺の知ってる世界か？

「おぬしの世界のライトノベルである……」

「まさか、とある魔術の禁書目録か……」

「残念ながら違うのおぬしの世界ではバカとテストと召喚獣と呼ばれておる物じゃ。」

マジか！？

とあるじゃないのは残念だけど、

バカ久や姫路さん、美波なんかと騒げるのか！

チート能力もらつて無双も夢じゃない！！

「チート能力とかは無理じゃぞ。」

えつつつ!! なんで?

「おぬしの行動で予定調和が歪んだんじゃぞ。」

「それなのになぜ能力を与えなければならんのじゃ。」

そんな無双が出来ないなんてorz

「まあ努力しかないの。」

原作破壊はありだよな!?

「まあバカとテストと召喚獣の物語の流れを汲んだ平行世界じゃからの。」

「原作破壊はかまわんぞい。」

よっしややー

じゃあせめて英語の苦手克服だけでも。

「だから努力するしかないと言っておるじゃろつが」

そんなあお願いだからくだry

「めんどくさいのお。」

「ほれとつと行け」

そついうと俺の下に穴が開いた。

え……

「逝つてらっしやゝい。」

「どこに落とす必要性があるんだー!」

「てか行くの字違うだろ!」

俺は無駄に叫んで穴に落ちていった。

「予定調和を直すためとはいえかわいそうなことをしてしまったの

お。  
「

あやつの行動は本来ならば褒められるべき行いじゃった。

じゃが神として予定調和を歪ませる事を認めるわけにはいかん。

「まああやつの知っている世界に送っただけ感謝してほしいの。」

個人的には気に入ったし頑張ってほしいのお。

## プロローグ（後書き）

ここまでお読みいただきありがとうございます。  
誤字、誤文の報告お願いします。  
感想もほしいなあ。

まだまだ駄文だと思いますが頑張るのでよろしくお願いします。

ちなみに主人公の名前は次回出す予定です

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3671q/>

---

バカとテストと怠け者

2011年1月28日14時05分発行